
開講科目名：刑事法研究（A）（2単位）
開設年次：1年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：清水 裕樹

《授業の概要》

＜授業の目標＞

刑法に関する一般向けの解説書を丁寧に読み込むことを通じて、

（1）刑法を中心とする、刑事法に特徴的な考え方を身に付けることができるようになることを目指す。

（2）テキストを批判的に読み込むことを通じて、テキストに指示されていない文献等を自発的に調査する姿勢を身につけることを目指す。

（3）犯罪という社会問題に対して、刑法という法律にできること、できないことについての射程と限界とを身に付け、犯罪を減らすためにいかなる方策が必要かという問題にみずから立ち向かうことができる。

＜授業概要＞

下記テキストの内容を「できる限り完全に」理解することを目指す。学習の方法にはさまざまなものがあるが、手頃なテキストにしっかりと取り組むというの、1つのやり方であろうと考えられる。わからない用語があれば調べ、一つの段落の、さらには段落相互の、章全体の、最終的にはテキスト全体の中に意味がわからないところがなくなるよう、繰り返し読み、興味をひかれた部分があれば他の文献や資料にもあたってより深い理解を得るという学び方を、この授業では目指したい。

したがって、授業にあたっては履修者がテキストをすでに読んできたことは当然の前提として、無作為に理解度をチェックし合う（教員もまた、学ぶ者であり、特になれに基づく誤解に陥っていないかのチェックを受ける立場である）ことで進めてゆきたい。

＜授業計画＞

下記は授業計画の目安である。ただし、理解しながら進むことを優先するので、実際には相当に進みが遅くなることも予想される。

- 第1回 この授業について 刑法を学ぶ意義
- 第2回 犯罪と刑罰とは何なのか (1) 罪と罰
- 第3回 犯罪と刑罰とは何なのか (2) 刑事手続のあらまし
- 第4回 犯罪と刑罰とは何なのか (3) 法的な禁止の対象と手段
- 第5回 犯罪は法律で作られる (1) 罪刑法定主義の意義と法律主義
- 第6回 犯罪は法律で作られる (2) 刑罰法規不遡及の原則と内容の適正性の原則
- 第7回 犯罪はどんなときに成立するのか (1) 結果としての犯罪被害と因果関係
- 第8回 犯罪はどんなときに成立するのか (2) 実行行為
- 第9回 犯罪はどんなときに成立するのか (3) 故意と過失
- 第10回 犯罪はどんなときに成立するのか (4) 未遂と共犯
- 第11回 犯罪はどんなときに成立しないか (1) 違法性阻却事由
- 第12回 犯罪はどんなときに成立しないか (2) 正当防衛
- 第13回 「はしがき」の設問にどう答えるか
- 第14回 テキストで扱われなかった刑事法の論点
- 第15回 刑法を学ぶ意義を問い直す

＜評価方法＞

授業への参加の度合い（授業中の課題への取り組み＋宿題等への取り組み）80％

レポート20％

で評価する。＜/NAIYO

《テキスト》

山口厚『刑法入門』岩波新書2008年

《参考書》

内藤謙『刑法原論』岩波書店1997年、西田典之『刑法』放送大学教育振興会2001年、井田良『基礎から学ぶ刑事法』2017年、団藤重光『刑法綱要総論』1990年、平野龍一『刑法総論I・II』有斐閣（1972・75年）